

かながわ長寿社会開発センター

いき² はつらつ

高齢期を健康で、いきいきと過ごしたいー
明るく活力ある長寿社会の実現に向けた取
り組みを紹介しします。

〈問合せ〉 ☎045-311-8734 FAX045-312-6302
http://www.nenrin.or.jp/kanagawa/

積極アピールで仲間を増やそう!

シニアグループの抱える大きな問題に「会員の高齢化」があげられます。新しく若い世代がなかなか参加しないため、活動力が低下し、やがてグループ自体が自然消滅してしまうケースも出てきます。

新しく会員に参加してもらうためには、まずグループを知ってもらう必要があります。

今回は、伊勢原市で活動している「いせはら生涯学習ボランティア協会」の取り組みを紹介しながら、シニアグループとしての広報について考えてみます。

新 新しくグループに参加しようとする人、特に初めての人にとっ

て、どんな活動がどのようなに行われているんだらう。実際に参加してみてもイメージと違ったら…と、不安感がつきまとうものです。

現在、各市区町村の生涯学習の相談窓口、もつと身近な場所では公民館や地区センターなどで、グループの情報を入手することができます。

しかし、こうした情報内容には限界があります。新しい会員の獲得には具体的な活動内容が分かる情報を、グループ自らが積極的に発信していく必要があります。

「い せはら生涯学習ボランティア協会」は、平成十

二年に市の「生涯学習ボランティアリーダー養成講座」の修了生が集まり活動を始めたグループ。これまで社会から得た知識や経験を社会に還元しようと、百人規模の講演会やシンポジウムを年に四回、二、三十人規模の講座や体験学習行事を月に一回開催しています。

現在会員は七十名。会員が一堂に会することはあまりないので、会員間のコミュニケーションを図るため、毎月『いせはら生涯学習ボランティア協会ニュース』を発行しています。

A3版の二つ折で、既に終了し

た行事の報告や現在の活動の実施状況、これからのスケジュールといった盛りだくさんの内容が掲載されています。また、なるべく写真を多く使い、見てすぐ分かるようにしています。毎回参加できなくても、毎月郵送されてくる『ニュース』を見れば、今何をやっているのか分かりますし、「次は参加してみようか」という気にもなります。



手づくりのあたたかさが伝わってくるニュース

毎 月百五十〜二百部印刷し、会

員のをはじめ、関係者やこれまでの講座の講師に配布をするほか、市内に七つある公民館にも置いてもらい、市民に向けても積極的にアピールをしています。『ニュース』を見て即入会する人もいますし、行事は全て公開講座としているので、『ニュース』を見て講座に参加し、実際の活動に接してから入会される方もいます。

また、地元のマスコミにも送付をしていますので、活動の実績が認められ、特に依頼をしなくても記事に掲載してくれるようになり、更に住民に活動情報が広まっています。「実績を『残す』ことが大切。実績を残せば必ず誰かが振り向いてくれるから」と、いつも皆には話しているんですよ」と事務局長の石井四郎さんは言います。

年 千円の会費は、ほとんど『ニュース』の送料。印刷は

公共機関など無料で印刷できる場所を活用し、紙代は行事の参加費収益と、市の助成金を充てています。会費は全員に還元できる物に充て、行事は受益者負担にして、不参加者の負担を減らすようになっています。

講座では、過去の参加者にダイレクトメールを送ることもありますが、「これは最後の手段だね。費用がかかりすぎるから」と石井さんは笑って話してくれました。

最近では、インターネットのホームページを開設し、積極的にアピールしているグループもあります。会員が入ってくるのをただ待っているだけでなく、グループ自ら積極的にアピールすること。それが相乗効果をもたらす情報が広まり、新たな会員の参加にもつながっていきます。